



ひらどだい

令和2年度 学校だより 7月号 横浜市立平戸台小学校学校長 藤巻 孝之



視点を変えると

副校長 小林 崇

休業期間中のことです。毎朝、プール裏の木々に野鳥たちが集い、合唱？雑談？を盛んにしているのですが、今まではさほど気にも留めず、「野鳥」と一括りにしていました。しかし、誰もいないプールで悠々と泳ぐ「カルガモ」やいつも美しい歌声を響かせている「ウグイス」の存在が気になりだすと、「他にどんな鳥がいるのかな？」と少しずつ興味が湧いてきていました。そんな時、日頃見かけない鳥を見かけました。美しい白と黒のコントラストとシャープな容姿、チッチツという愛らしい声に「かわいい鳥だなあ、大発見だ。」と感激して、すぐに調べてみました。するとそれは「ハクセキレイ」という鳥でした。それほど珍しくなく、どこにでもいる鳥とのことでしたが、がっかりするということはありませんでした。その鳥の名前や生態がわかったからです。この魅力的な鳥の存在に気付くことができたのは、野鳥を「一括り」とせずに、興味をもってみたこと、意識をしてみたこと、また休業期間中ということで普段とは異なる視点で物事を見つめたことができたからだと思います。長かった休業期間が私の視野を広げてくれたと感じました。

子どもたちの笑顔が学校に戻ってまいりました。挨拶の声も朗らかに、高らかになってきていることを感じます。オープンスクールや授業参観が中止となってしまう、保護者の皆様が学校を訪れ、子どもたちの様子を見ていただく機会が減ってしまいましたが、学校 HP(学校日記)にて少しでもお伝えできるようにしてまいります。学校では、毎朝の健康観察やマスクの着用、3密の回避など新しい生活様式にも慣れてきましたが、感染の防止には引き続き努め、子どもたちが安心して学校生活が過ごせるよう、職員一同見守り、教え、導き、育ててまいります。長かった休業期間をプラスに捉え、視点を変えて物事を見つめ、しなやかに歩みを進めたいと思います。

学校再開当初の分散登校では、見守り隊の皆様、校外指導委員の皆様、保護者の皆様方に登下校の安全確保について学校からお願いを申し上げました。例年通りとはいかない中、多大なご協力をいただいたおかげで、まだ学校に慣れていない1年生を始め、午前、午後と分散して登下校する子どもたちの安全を保障することができました。学校だけではどうしても人手が足りない場面でしたので、ご協力をいただくことでスムーズに学校再開のスタートが切れましたこと、感謝しております。

PTA 活動も例年通りとはいきません。PTA 本部役員さんが苦慮されながらも話し合いを重ね、子どもたちにとってよりよい方法を探りながらスタートを切ろうとくださっています。コロナ禍の中だからこそ、地域、家庭、学校が手を携えながら乗り越えていきたいと考えています。まだまだご協力をいただかなくてはならない場面が続くとは思いますが、どうぞよろしく申し上げます。